

授業科目名	美術科教育法1 (Art Education 1)		
科目番号	94410(産業技術学部)	授業形態	講義
単位数	2単位	履修年次	2・3年次
教員の免許状取得のための必修・選択	必修	受講対象	産業技術学部
担当教員(研究室)	直江 俊雄 (非常勤講師)		
実務経験のある教員による授業科目			
免許法施行規則に定める科目区分等	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業の到達目標	中学校美術科ならびに高等学校芸術科美術の指導に必要な、美術教育の意義、歴史、目標、内容、評価、指導の実際等の基礎的知識を習得した上で、指導計画を立案し、実際の指導に必要な教材を準備する力を身につける。		
授業概要	導入部で基礎的知識を概説し、次に指導の実例を紹介し、最後に各自の指導計画を立案できるよう指導する。		
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 授業前に、指定したテキストや資料など読んでおくこと。次回の授業範囲を予習し専門用語の意味等を理解しておくこと。(2H) 事後学修 授業で学んだ内容の復習をしておくこと。(2H)		
授業計画	第1回:シラバスを用いたガイダンスと受講案内 第2回:子どもの美術表現に関する理論 第3回:子どもの美術表現に関する事例 第4回:幼児期から青少年期における美術学習の意義 第5回:美術教育の歴史概観 第6回:学習者中心の美術教育 第7回:美術教育の制度・目標・内容・評価 第8回:指導事例に学ぶ(1)中学校美術科 第9回:指導事例に学ぶ(2)高等学校芸術科美術 第10回:年間指導計画を検討する(指導案作成) 第11回:題材の検討(指導案作成) 第12回:教科書の理解と活用(教材研究と情報機器) 第13回:生徒に対応した指導の工夫(教材研究と情報機器) 第14回:授業展開のシナリオを構想する(模擬授業) 第15回:指導の実際について学ぶ(模擬授業)期末試験を実施しない。 期末試験を実施しない。		
テキスト	必要に応じて授業時に紹介する。		
参考書・参考資料等	「中学校学習指導要領」文部科学省、「高等学校学習指導要領」文部科学省、「高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編」文部科学省、その他必要に応じて授業時に紹介する。		

成績評価方法	作成教材・指導案(50%)、授業の取り組み(50%)を総合的に評価する
成績評価基準	A+:到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている A:到達目標を達成し、優秀な成績を修めている B:到達目標を達成し、良好な成績を修めている C:到達目標を最低限達成している。 D:到達目標に達していない